

調査の概要

- 1 根拠要領：神奈川県年齢別人口統計調査事務処理要領
- 2 調査時期：毎年1月1日午前零時現在
- 3 調査方法

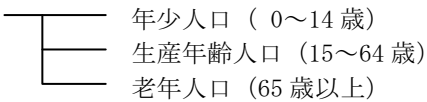
この調査は、平成22年国勢調査の調査票情報を独自集計した年齢別人口を基礎とし、市町村長の報告に基づく住民基本台帳法、外国人登録法及び戸籍法に定める出生、死亡、転入、転出の年齢別異動人口を加減して毎年1月1日現在の年齢別人口を算出し、県でとりまとめたものです。

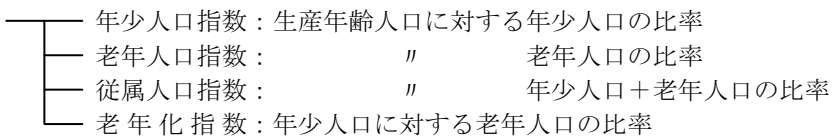
- 4 地域別市町村名

地域名	市町村名
横浜・川崎	横浜市、川崎市
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
県 央	相模原市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
湘 南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町
足 柄 上	南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町
西 湘	小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町

用語の解説

- 1 年 齢：調査日前日による満年齢

- 2 年齢（3区分）別人口 

- 3 年齢構造指数 

- 4 性 比：女性100人に対する男性の数

- 5 平均年齢の算出方法

$$\text{平均年齢} = \frac{\text{年齢(各歳)} \times \text{各歳別人口の和}}{\text{総人口} - \text{年齢不詳人口}} + 0.5 \text{ (満年齢後の経過月数調整値)}$$

(小数点第3位以下切り捨て)

利用上の注意

- 1 神奈川県年齢別人口統計調査は、昭和51年1月1日現在調査（昭和50年10月1日現在実施の国勢調査による年齢別人口を基礎として推計）から本県が毎年実施しているものであり、本報告書に使用しているそれ以前の数値は、大正9年から総務省が5年ごとに実施している国勢調査の統計を使用しています。
- 2 年齢不詳は、平成22年国勢調査の数値で、国勢調査の中間年次（平成23年～27年）はその数値となります。
- 3 全国の数値は、総務省統計局発行「人口推計月報」による平成24年1月1日現在推計人口（確定値）を使用しています。
- 4 数字の単位未満は四捨五入してあり、合計の数字と内訳の計が一致しない場合があります。
- 5 解説中に用いている「ポイント」とは、比率の差を表します。
- 6 総人口には年齢不詳を含んでいますが、構成比は年齢不詳を除いて算出しています。
- 7 該当数値がマイナスのものは、当該数値の前に「-」を付けて表記し、該当数値がないものは、「-」で表記しています。

調査結果の概要

1 年齢（3区分）別人口

- (1) 平成24年1月1日現在の神奈川県の新人口は、906万257人（男性454万2247人、女性451万8010人）です。【表1, 3, 4参照】
- (2) 年齢（3区分）別人口は、年少人口（0～14歳）118万2523人、生産年齢人口（15～64歳）595万7088人、老年人口（65歳以上）186万8418人となり、老年人口が年少人口を68万5895人上回っています。【図1, 表1, 11参照】
- (3) 平成23年1月1日現在の調査（以下「前年調査」という。）に比べると、総人口は9229人増加しており、年少人口は5407人減少、生産年齢人口は2万9127人減少し、老年人口は4万3763人増加となっています。【図2, 表1, 6, 11参照】
- (4) 年齢（3区分）別人口の構成比は、前年調査に比べ、年少人口は0.1ポイント低下し13.1%（全国値13.1%）、生産年齢人口は0.4ポイント低下し66.1%（同63.5%）、老年人口は0.4ポイント上昇し20.7%（同23.4%）となっており、全国値と比べると、生産年齢人口では2.6ポイント高く、老年人口では2.7ポイント低くなっています。【図3, 表1, 6参照】
- (5) 年齢構造指数のうち、年少人口指数は19.9、老年人口指数は31.4となっており、この2つの指数を合わせた従属人口指数は51.2で、これによると、2.0人の現役で1人の年少者又は高齢者を支えていることになります。また、老年化指数は158.0で、年少者1人に対し高齢者1.6人の割合となっています。なお、これらの値はすべて全国値（年少人口指数20.6、老年人口指数36.9、従属人口指数57.5、老年化指数179.5）より低くなっています。【図4, 表2参照】

図1

人口ピラミッド〈年齢（各歳）、男女別人口〉

平成24年1月1日現在

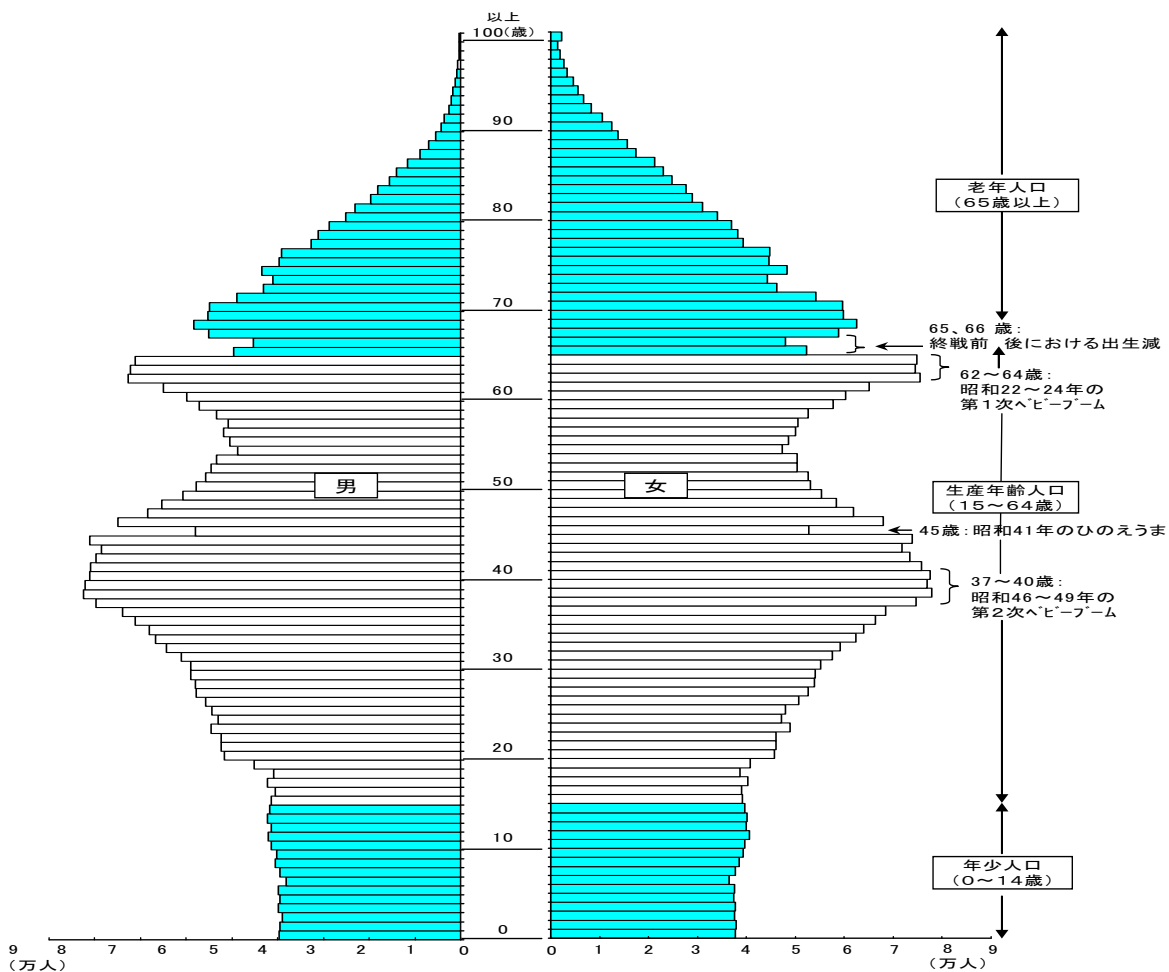


図2 年齢（3区分）別人口の推移

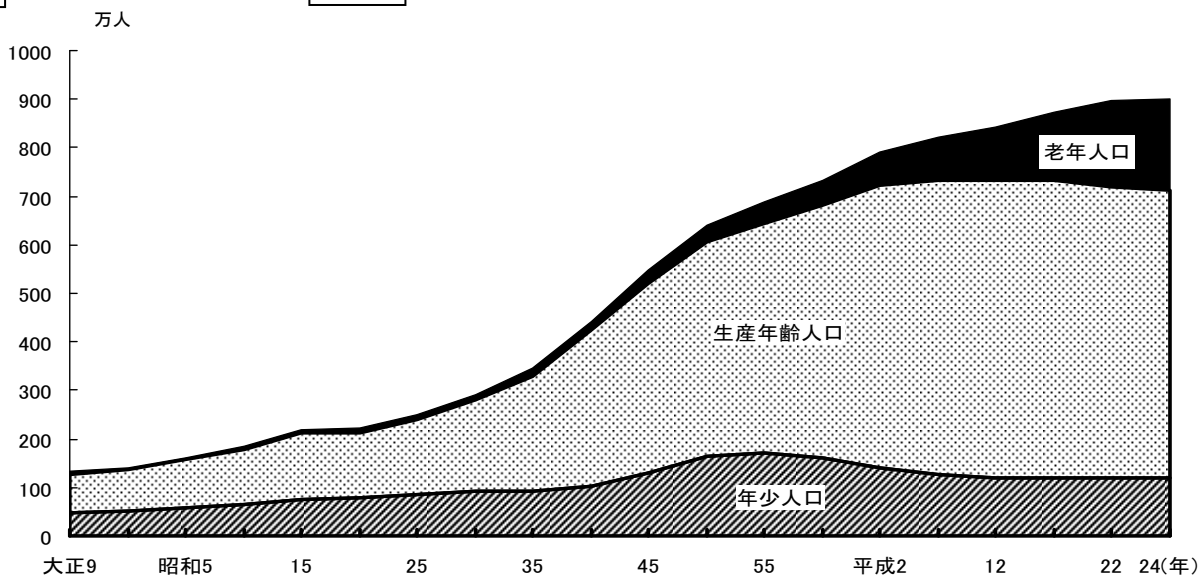
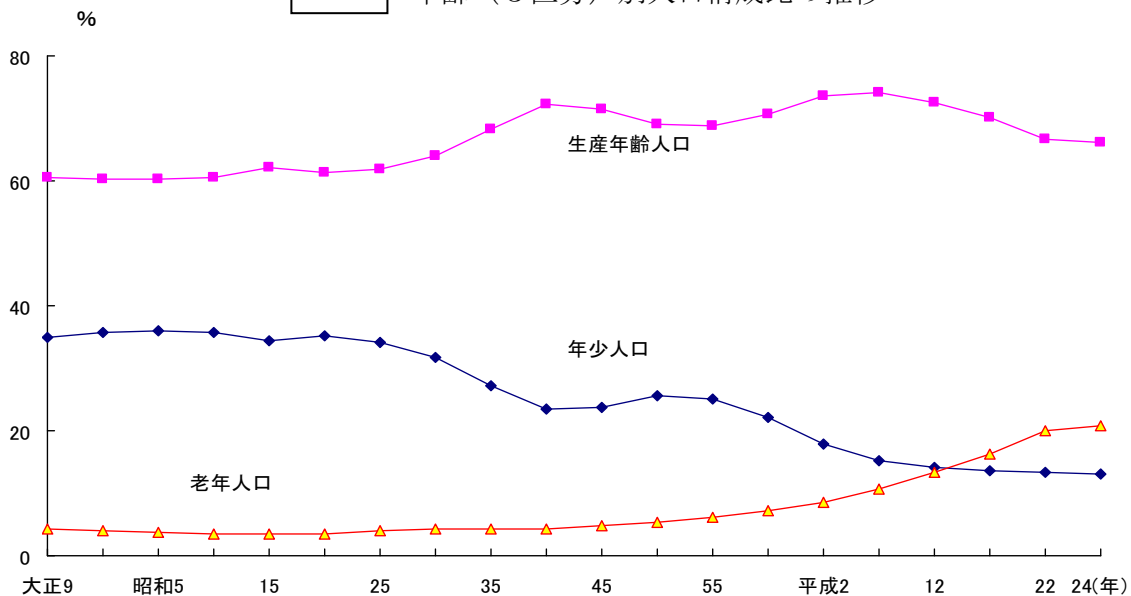
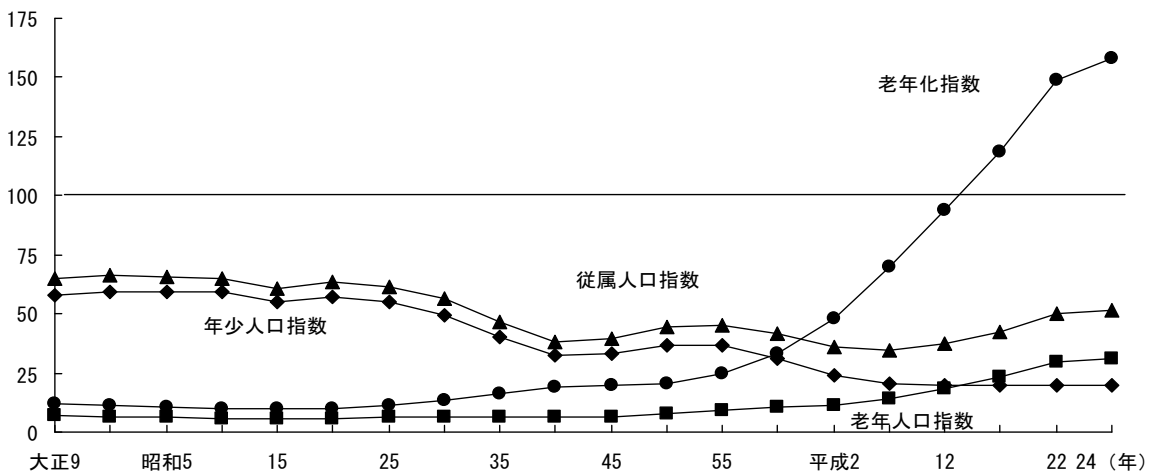


図3 年齢（3区分）別人口構成比の推移



(注) 構成比は年齢不詳を除いて算出している。

図4 年齢構造指数の推移

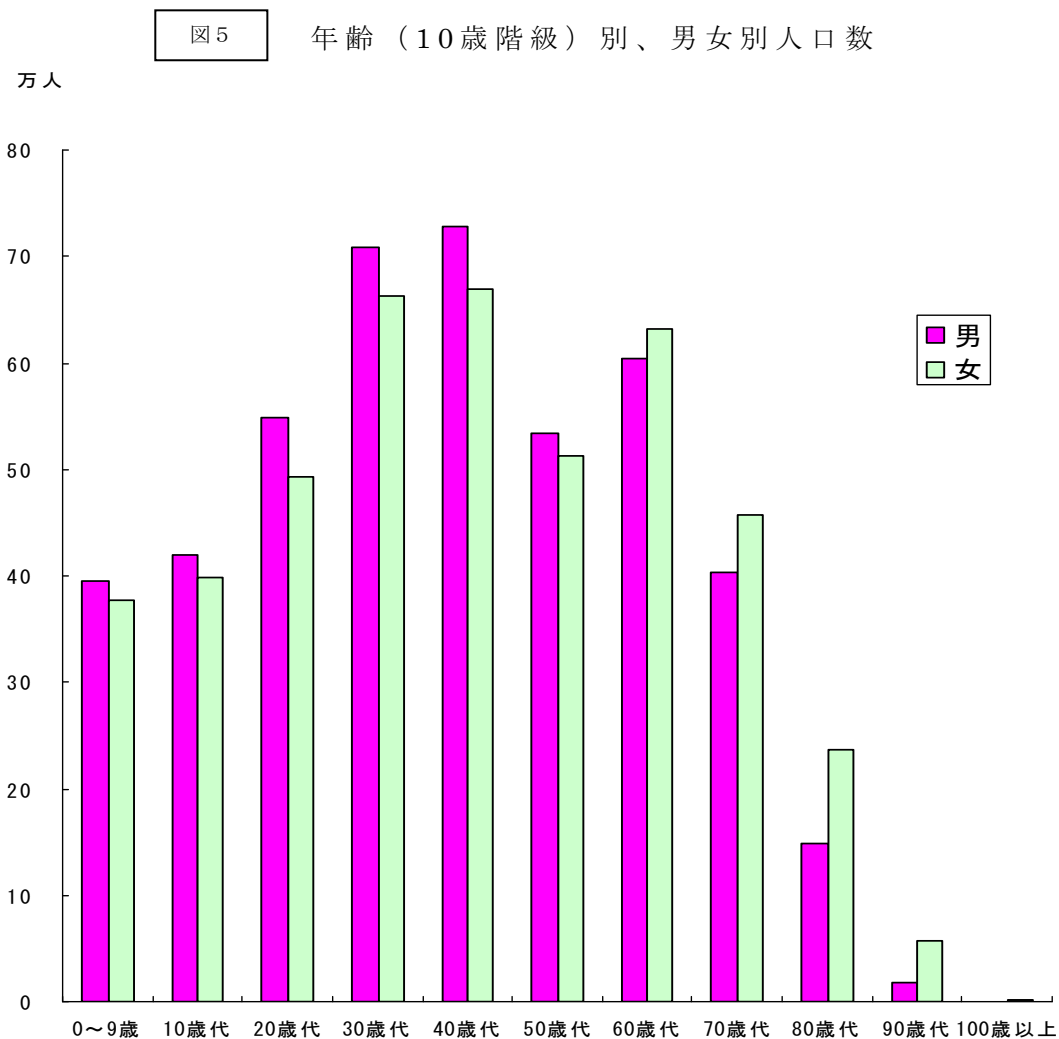


2 年齢（10歳階級）別人口

- (1) 年齢（10歳階級）別人口は、40歳代が139万7489人（人口構成比の15.5%）と最も多く、次いで30歳代の137万1228人（同15.2%）、60歳代の123万6201人（同13.7%）の順となっています。【表3参照】
- (2) 前年調査より0歳代、10歳代、20歳代、30歳代、50歳代、60歳代の人口は減少し、その他の階級は増加しています。【表3, 15参照】
- (3) 男女別人口で見ると、男性では40歳代が72万8895人（男性に占める割合は16.2%）と最も多く、次いで30歳代の70万8690人（同15.7%）、60歳代の60万4672人（同13.4%）の順となっています。

女性でも40歳代が66万8594人（女性に占める割合は14.9%）と最も多く、次いで30歳代の66万2538人（同14.7%）、60歳代の63万1529人（同14.0%）の順となっています。

【図5, 表3参照】

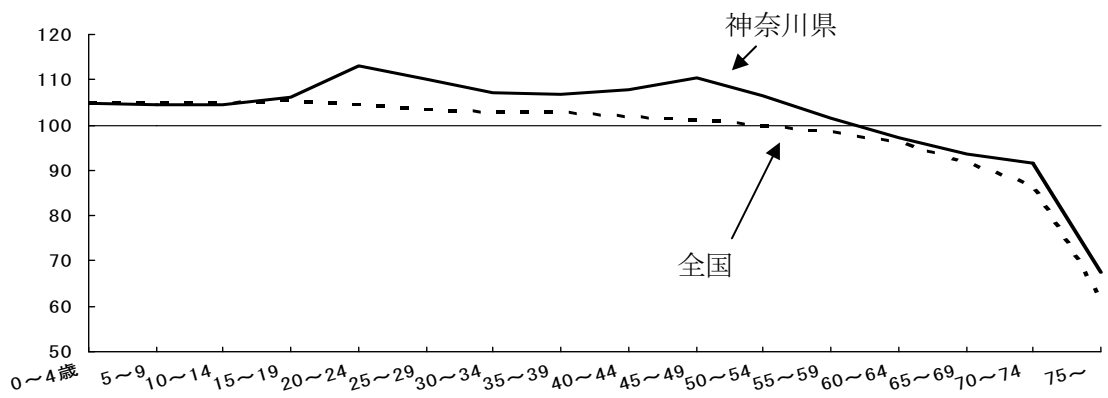


3 性 比

- (1) 総人口を男女別にみると、男性が454万2247人、女性が451万8010人で、男性が2万4237人多く、性比（女性100人に対する男性の数）は100.5で、前年調査に比べると0.3ポイント低下していますが、全国値（94.7）と比べると5.8ポイント上回っています。【表4参照】
- (2) 年齢（5歳階級）別の性比は、20～24歳が112.9、45～49歳が110.6と、110を超えています。

また、これらの年齢階級の性比は、全国値より著しく高く、20～24歳は8.4ポイント（全国値104.5）、45～49歳は9.4ポイント（同101.2）、それぞれ全国値を上回っています。【図6, 表4参照】

図6 年齢（5歳階級）別性別比



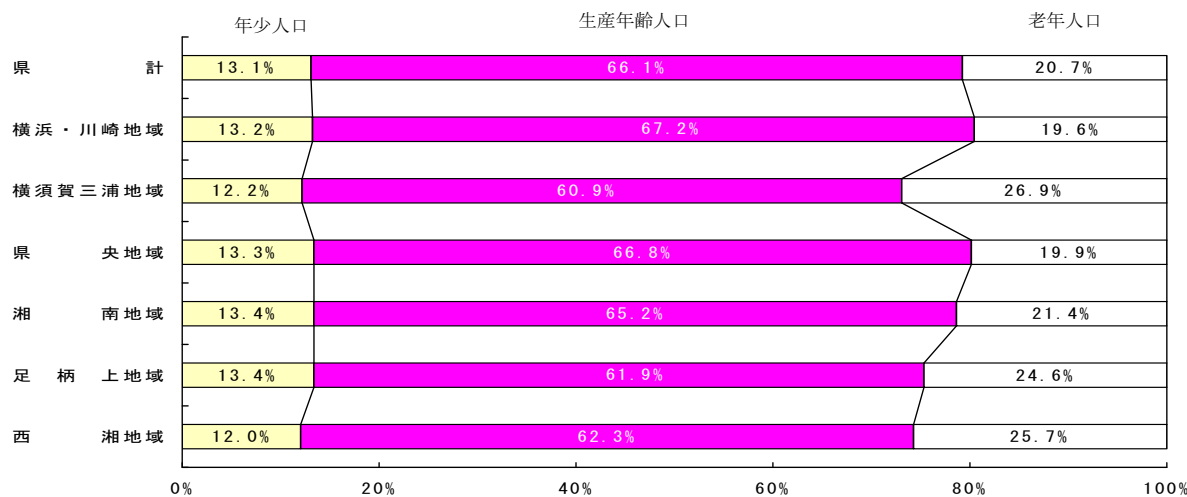
4 平均年齢

- (1) 平均年齢は43.82歳で、前年調査に比べ0.33歳高くなり、毎年、高齢化が進んでいます。
【表5参照】
- (2) 男女別平均年齢は、男性が42.65歳(前回調査に比べ0.32歳上昇)、女性が44.99歳(同0.34歳上昇)で、男女を比べると男性が2.34歳低くなっています。【表5参照】
- (3) 地域別平均年齢は、横須賀三浦地域の47.15歳が最も高く、次いで西湘地域の46.81歳、足柄上地域の45.89歳の順となり、最も低いのは横浜・川崎地域の43.26歳となっています。
【表7参照】

5 地域別、年齢（3区分）別人口の構成比

- (1) 県内6地域（横浜・川崎、横須賀三浦、県央、湘南、足柄上、西湘）別の年齢（3区分）別人口構成比は、年少人口では湘南地域と足柄上地域が13.4%と高くなっています。最も低いのは西湘地域の12.0%となっています。
【図7、表6参照】
- (2) 生産年齢人口では、横浜・川崎地域が67.2%、県央地域が66.8%、湘南地域が65.2%の順となっています。一方、最も低いのは横須賀三浦地域の60.9%、次いで足柄上地域の61.9%となっています。【図7、表6参照】
- (3) 老年人口では、横須賀三浦地域が26.9%で最も高く、次いで西湘地域の25.7%、足柄上地域の24.6%の順となり、最も低いのは横浜・川崎地域の19.6%となっています。
【図7、表6参照】

図7 地域別、年齢（3区分）別人口の構成比

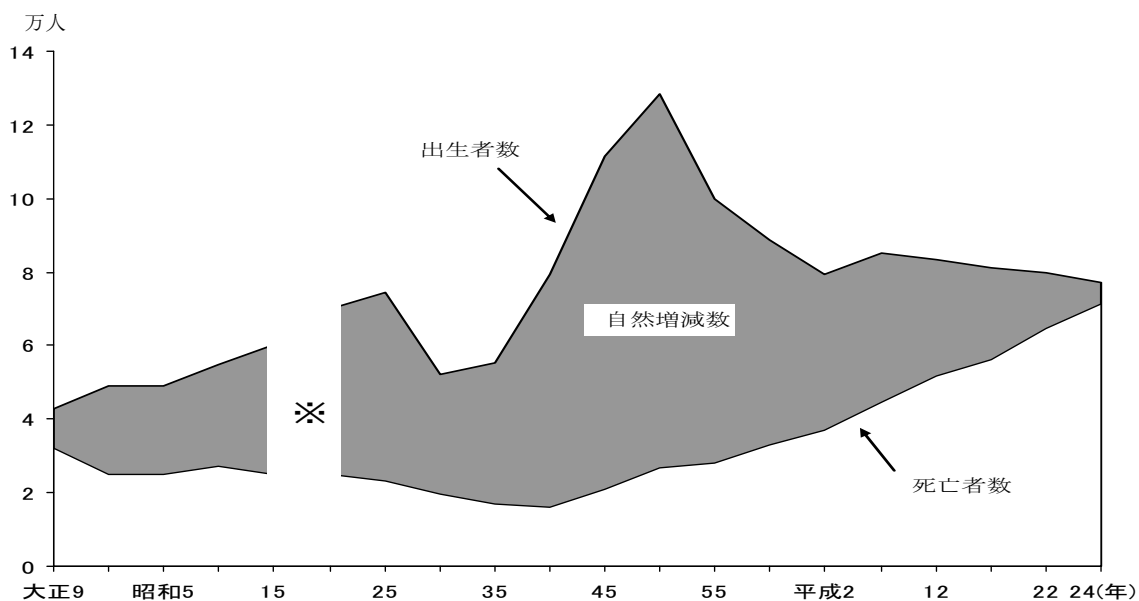


(注) 構成比は年齢不詳を除いて算出している。

6 年齢別異動人口

- (1) 平成 23 年中の人口増減は 9229 人で、その内訳は自然増減が 5970 人、社会増減が 3259 人となっています。【表 12 参照】
- (2) 自然増減[出生者－死亡者](5970 人)は、出生者が 7 万 7353 人、死亡者が 7 万 1383 人となっています。【図 8, 表 12 参照】
- (3) 社会増減[転入者－転出者](3259 人)は、転入者が 48 万 4175 人、転出者が 48 万 916 人となっており、なかでも 20 歳代前半の社会増減は 8403 人増と最も大きくなっています。【表 12 参照】
- (4) 社会増減の 10 歳階級別人口のうち、0 歳代及び 30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代、100 歳以上の年齢階級で転出超過となり、その他の年齢階級で転入超過となっています。
また、20 歳代が転入者転出者とも最も多く、転入者は 15 万 7471 人で転入者総数の 32.5%、転出者は 14 万 9572 人で転出者総数の 31.1%を占めています。【図 9, 表 13 参照】

図 8 出生・死亡者数及び自然増減数の推移



※昭和 14 年から昭和 20 年までの出生・死亡者数はデータ又は集計がありません。

図 9 年齢(10歳階級)別転入・転出者数 (万人)

